

白髪山を最高点として湧出し、物部川本流の植山川と上葦生川を隔て、大板まで続く物部の脊骨のような稜線。
この尾根の中心部であり白髪山以南では最高点にあたるのが口西山である。
みやびの血から南下する尾根はフナエ主体とした原生林の中、モミツガ、アヒキ、リュウグウツツジ類など、深山の雰囲気濃厚。木々の間から石立、ニ童、天狗塚、細附森も見える。口西山周辺は猛烈なスズクエにおおわれており、この山域を守っているようだ。
山頂から東へ平坦な尾根もスズクエをかき分け、進めると源氏の森へ。南西へ進むと井地山へ、勘定山方面へフナエの森を歩く。



長い年月をかけて生成されている森林環境を歩く。地面の柔らかさを感じ、足元にある無数の命を感じる。土の中にある根、こぼれ土を見上げて緑があるだけ根が伸びている。地面から見上げる空は美しい。森の空気に抱かれ、土に還ることほとんど自然で安らかなのかもしれない。

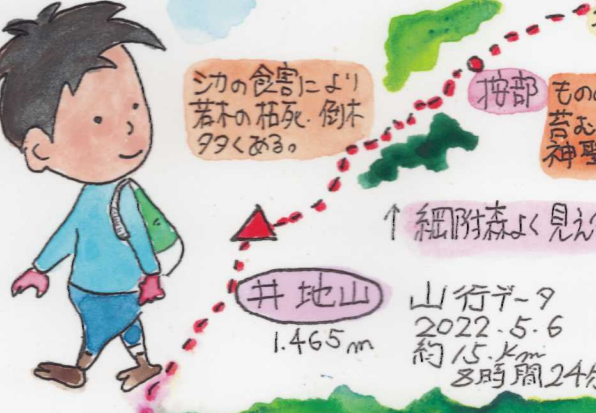
この尾根の頂部はほとんど人の手が届かない。古くからの森の姿を今にとどめている。

人間も自然の一部。宇宙の運行に従って、森も鳥も花もみな自然の中でのびのびと出ている。そんな風にして森を歩きたい。

この尾根で、白髪山以南の最高点である口西山。山頂の三角点には深いスズクエの中にも見られる。



この尾根の中心部である口西山から勘定山にかけて北傾。南側にも稜線と谷との高低差は1,000mを越えている。



井地山 山行7-9 2022.5.6 約15km 多時間24分

別府山49坪班はあまりにも険しい地形のため人の手が一切入らなず、100%が天然林の林班は四国一。

平家伝説が数多く存在する物部において坂東武者集団の名を冠する源氏の森は、いったい何を意味するのだろうか。四つ足城を越え源氏の追手がたどった山なのか。古北の平家城や大板の平家森との対比なのか。この奥深い別府の山に名を記す源氏の森は実に不思議である。2022年5月6日 空を仰ぐといひしが白い花びらが一枚一枚、風に舞いはじめた。オクメノキだ。まるで風にたなびく源氏の白装束のようにも見え、いつか空の青と吸い込まれていった。

口西山

山